



どうして雪の結晶は六角形になるの

氷の結晶は六角形

上空にある雪を降らせる雲は、小さな氷のつぶが集まったものです。上空は気温が低いので、空気中の水蒸気が、氷のつぶにくっついてだんだん大きくなり、大きな氷の結晶になります。

この氷の結晶が、降ってくるとちゅうでとけないで、地上に降ってきたものが雪です。水はこおると、六角形をした氷の結晶になります。

水蒸気が氷の結晶の角につきやすい

空気中の水蒸気がくっついて、氷の結晶がだんだん大きくなっていくときに、水蒸気は六角形の角の所につきます。水蒸気が、角やへりの所にくっつきやすい性質を、もっているからです。

ふつう、雪のつぶは、一つの結晶ではありません。特に、ぼたん雪などは、何百もの結晶の集まりです。虫めがねなどで見ると、よくわかります。

雪の結晶は、星のような形のものや、六角形の枝のようになったものなど、いろいろな形をして、まったく同じ形、というものはほとんどありません。雪の結晶の形は、600種類以上もあるといわれています。しかし、中心から六方に枝をのばしたり、柱を出したような形や六角形になっています。雪が降ってくるとちゅうの気温のちがいで、雪の結晶の形がちがいます。（監修・村山 貢司）

